

【「日本の廃道」ノ歩き方】

～初めての方はご一読ください～

【日本の廃道とは】

「日本の廃道」とは.....を説明するのが面倒なので ORJ BEST！ を公開しています。どうかご一読ください。というか [公式ページ](#) 見てね。

【特徴】

pdf形式の同人誌。pdfの機能を（無駄に）活用した作りになっています。なのでプリントアウトには向きません。

毎月1回、15日に発行しています。有料です。気に入ったらぜひ [読者登録](#) してご購読ください。

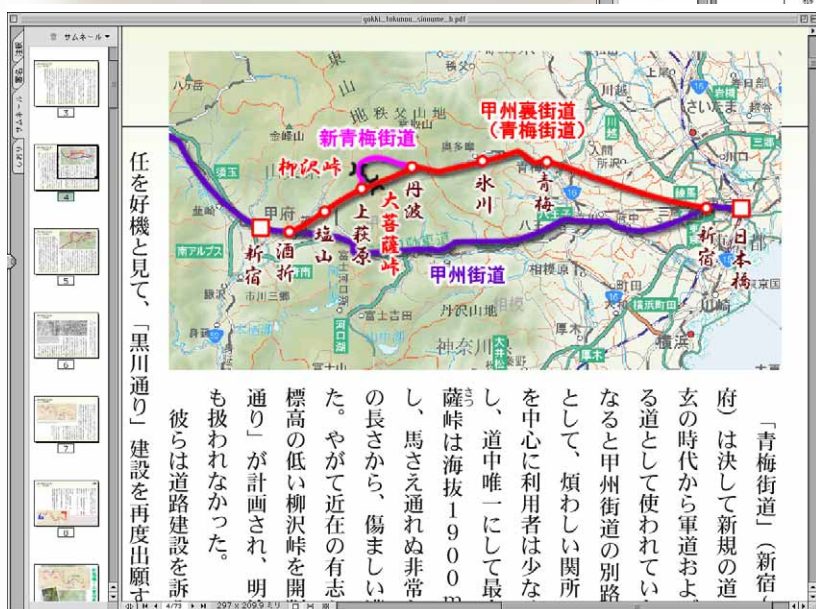
あ、この「歩き方」はいつもはつきません。ORJ BEST！収録記事だけについています。






● 画像の拡大

画像をクリックすれば拡大表示し、もう一度クリックすると元に戻ります。

第17号（2007年10月発行号）以前の記事では、写真クリックで拡大「BACK」あるいは「戻る」などのボタンで縮小を行なうものがあります。



●ポップアップ・補助線表示

画像に「」や「」のアイコンがついたものは、マウスをあわせると別画像がポップアップします。「」は補足情報が吹き出されます。吹き出されるって何だ。クリックでポップアップするものもあります。



●リンク

本文中の破線囲みはリンクです。色によってリンクの種類が違います。

青：pdf内部の移動リンク **水色**：webサイトへのリンク

ピンク：「日本の廃道」バックナンバーへのリンク

赤：web上のpdfへのリンク **緑**：その他（画像ポップアップなど）

すでに該当号をお持ちであることと、ファイルが次のような位置関係に置かれていることを前提としています。BEST！版は“ORJ_0001”というフォルダを作って他と同じ階層に置いて下さい。

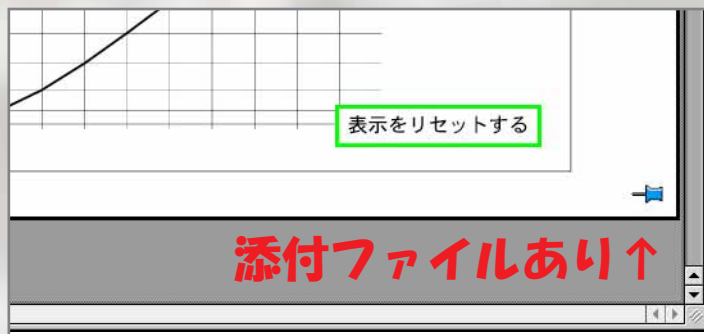
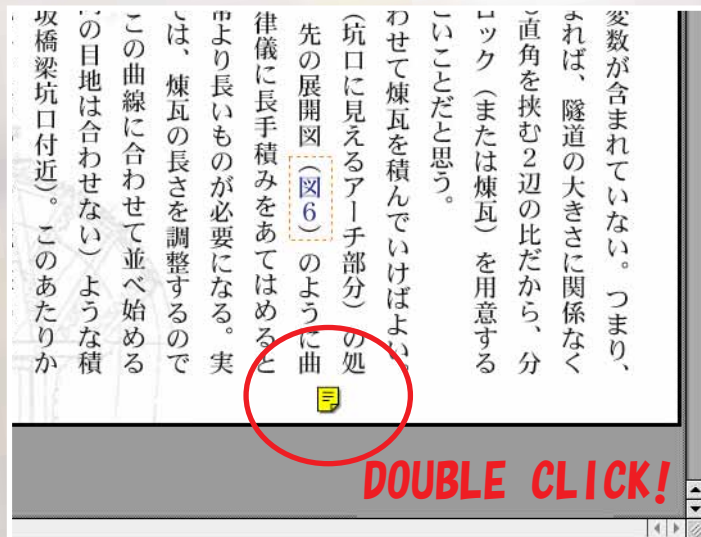
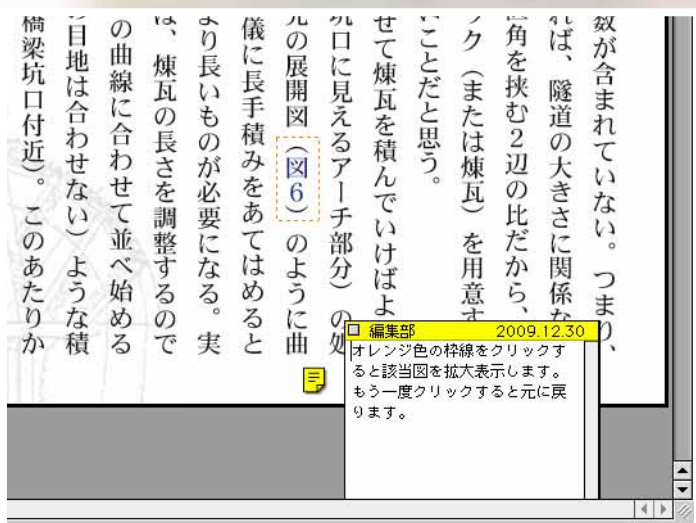
[例]

```
ORJ_0001 .....フォルダ（自分で作る必要があります）
├─yokki_tokunou_sinoume_b.pdf
├─tuka_oushuu_b.pdf
├─higasikumano_01_b.pdf
└─
ORJ_0801 .....フォルダ（自分で作る必要があります）
├─ORJ_0801.pdf
├─top_0801.pdf
├─whatsnew_0801.pdf
└─
ORJ_0802 .....フォルダ（自分で作る必要があります）
├─ORJ_0802.pdf
├─top_0802.pdf
├─whatsnew_0802.pdf
└─
```

●ふせん、添付ファイル

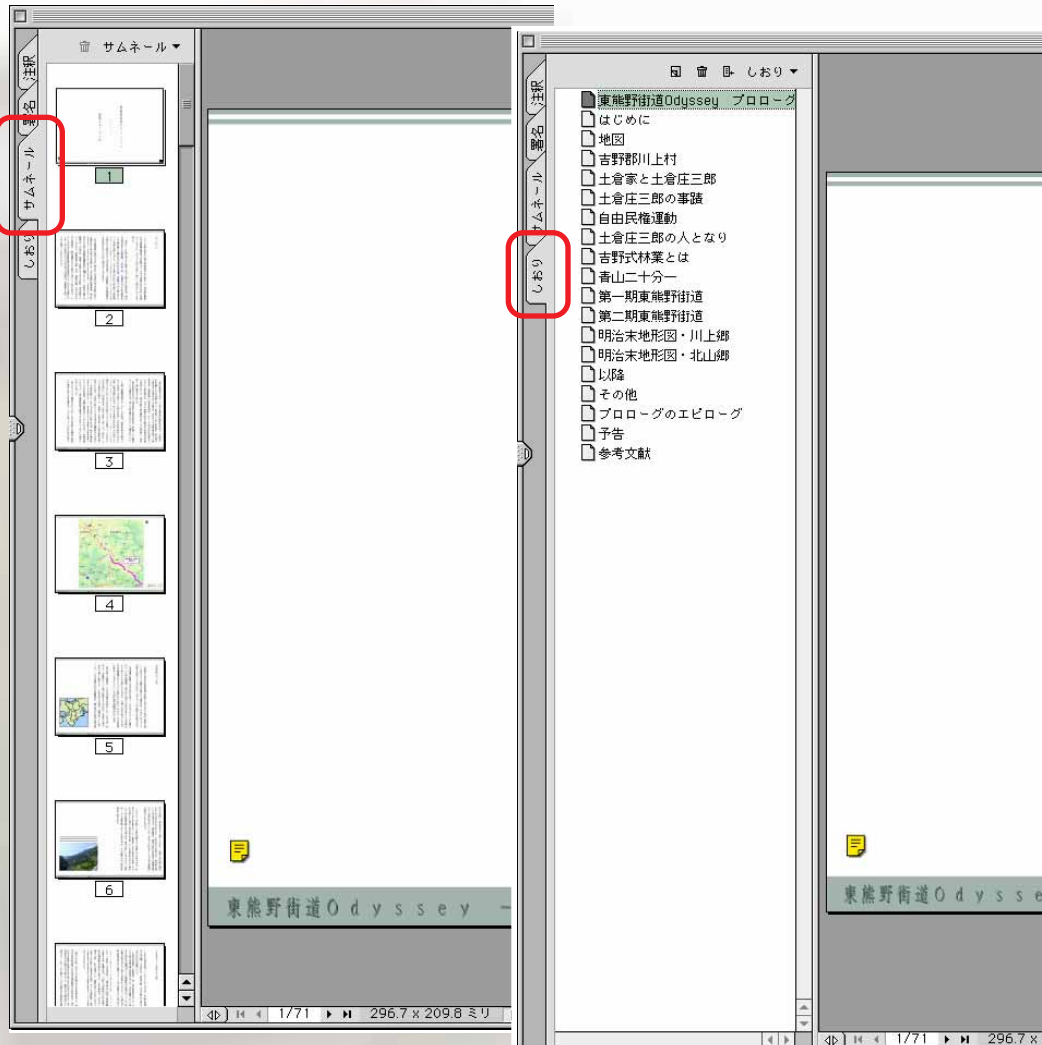
pdfの機能・「ふせん」で補足情報がついていることがあります。クリックすると展開され読むことができます。

ピンの形をしたふせんアイコンはファイルが添付されています。ダブルクリックで対応アプリケーションが開き、内容を表示します（右クリックで保存することもできます。添付内容に不安のある方は別名保存してご確認ください。大したものはないかもしれませんが）。



●しおりとサムネール

デフォルトでは画面の左端に「サムネール」が表示されます。クリックすればそのページが表示されます。「しおり」に切り替えればテキスト(見出し)で表示させたいページを選ぶことができます。



他にどんな記事があるの？

公式ページに一覧があります。BEST！版に興味をお持ち下さったはぜひご覧下さい。そうでない方は無駄なpdfファイルをダウンロードしてしまったことを嘆いてください。

「日本の廃道」誌の歩み

<http://www.the-orj.org/history/history.html>

各号の収録記事一覧と簡単な解説あり。

都道府県別記事一覧

http://www.the-orj.org/history/history_p.php

県別に記事を表示します。エリアでお探しの方はこちら。

「カテゴリー一覧」

http://www.the-orj.org/resist/kiji_order_1st.php

ネタ別で記事をお探しいただけます。ここからCD-R購入することもできます。

【制作コンセプト】

15インチサイズのディスプレイ（1024×768ドット）で読むことを前提とし、本文は拡大・縮小せずに読める大きさを製作しています。ディスプレイが小さくてお困りの方は買い替え「全画面表示」をお試し下さい。

画像は拡大して隅々まで見られるような大きさを貼っつけてます。またフォントは基本的に埋め込みです。なので一般的なpdfに比べて非常に大きなものとなっています。ご了承ください。

【pdfビューアについて】

動作確認はAdobe社のAcrobat（Acrobat Reader）にて行なっています。その他のビューアでは予期しない動作をする場合があります。編集部までご連絡いただければ、できる限り対応をします。

Acrobatのバージョンは4.0以上（PDF 1.3準拠以上のビューア）でご覧いただけます。Acrobat Readerの古いバージョンは以下で入手できます。

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/alternate.html>

【「日本の廃道」ノ買い方】

～初めての方はご一読ください～

3種類の購入方法があります

歴史的な経緯から（何、3種類の購入方法があります。まずは「お試し購入」か「CD-R購入」で有料号をお求めいただき、気に入ったら「アカウント方式」で継続購読されるとよいでしょう。

購読料のお支払いには次の手段が使えます

- ・クレジットカード払い（手数料3.4%+ ）
- ・ゆうちょ銀行口座（手数料無料～）
- ・ゆうちょ振替口座（手数料90円～）
- ・eバンク口座（手数料無料～）（2010年2月より有料になります！）

それ以外も受け付けます

ご希望の号と代金（あるいは代金に相当する何か）を編集部に送りつけてください。何とかします。

アカウント方式

「日本の廃道」読者登録をして、前金で購読料を入金していただく方式です。まとめてご送金いただくことで振込み手数料を節約することができます。また、修正情報をメールで取得したり購読記録を残したり、購読料から差引してアイテムを購入することも。

詳細は下記「読者登録をする」をクリック！

読者登録する



購読料を入金する／連絡する



連絡をまつ



ダウンロード

CD-R購入方式

読者登録が面倒な方、前金入金が不安な方はCD-R購入をお試ください。ご希望号をCD-Rに焼いてお送りします（送料実費）。

「CD-R購入」ページで記事を選ぶ



CD-Rが届くのを待つ



代金を支払う

お試し購入方式

とりあえず試しに1部購入してみようという方向け。クレジットカードによる決済でその場でダウンロードできます。そのかわり毎回手数料が掛かり、割高になります。(例：400円の号を購入 455円のお支払い)

お試し購入はダウンロードページの「」アイコンをクリック。

ダウンロードページの「」をクリック



PayPalで必要事項を入力



ダウンロード

上杉氏による奥州街道の換線

～もう一つの「関ヶ原」～

(福島県白河市)



白河市

福島県白河市の郷土史を片っ端から読み漁っていたら、偶然、奥州街道に平行するように伸びる謎の古道に関する記述に出合った。

歴史の深い白河市のこと。律令時代から続く東山道や故事に因んだ地名など、元々興味深い地域なのであるが、この古道の存在は全く知らなかった。

さらに調査を進めると、この古道には想像もしていなかった日本史の大きな転換点が絡んでいることが判った。

(TUKA)

＜国境の峠＞



下野国と陸奥国の境界となる**明神峠**を南側から見る。
現在は栃木県と福島県の県境である。
境界を挟んで道の西側に二つの神社が並び立っているため、
二所ノ関とも呼ばれた。（手前は栃木側の玉津島神社）
ここを通る奥州街道は明治になって**陸羽街道**と改称されたが、
三島通庸県令による換線のため、すぐに旧陸羽街道になってしまった。
現在は国道294号線である。



県境西側の法面上には昭和初期の境界標が見られる。
「界」の文字に心が躍る。



その境界標と対面して「**従是北白川領**」と書かれた江戸時代の藩境界標が立つ。
碑が立っている所は、かつての路面だろうか。

では徳川家康が越えられなかった境界を越えて白河藩…、
いや、福島県に入ってみよう。



福島側から明神峠を振り返る。
南部藩士の末裔が経営していた茶屋・南部屋跡から撮影。
この峠は近代になって何度かの改修が加えられており、
その痕跡を福島県側の住吉神社脇に見ることができる。
明治9年(1876)と14年(1881)に行われた明治天皇の東北巡幸に合わせて
峠の掘り下げ工事が行われ、その痕跡が二段の石垣となって現れている。

坂を下った所には**明神峠の一里塚**があったが、今は何の痕跡もない。



国道を北上し旧白坂宿を抜ける。
参考にした本によると、右側（東）の斜面に奥州街道よりも
古い道が残っていると言う。

峠から 2.5 km ほどの地点に分岐があるはずだが、
それらしいポイントは見つからず、斜面には道形も見当たらない。
「おにぎり」付近の藪の薄そうなポイントを選んで山に入ってみる。



すると笹を刈り払った細道が現れた。
どうやらこれが探していた道のようなのだ。
古道を保存しようという地元の方の熱意には頭が下がる。



振り返れば先ほどの「おにぎり」がこちらを見ている。
三島県令の独断により一桁国道にはなり損ねたが、
足元の細道と比べたら遥かに良い境遇であろう。



登山道のような細道を緩やかに上って行く。

奥州街道の間道として利用されていたと思われる古道であるが、現状はあまり喜ばしいものではない。



古い崩落の跡が2箇所あったが、迂回して通る道が付いていた。
さほどの危険を感じずに通過することが出来る。



その崩落地越しに国道が見下ろせた。
過去に何度も通った道だが、この古道には全く気付かなかった。



勾配が緩やかになり、方向を変えて国道を背にするようになると、
やがて前方に鞍部が見えてくる。



国道を離れてまだ5分だが、どうやら峠に着いたようだ。
ごく浅く、短い切り通し。
これを地元では**御茶屋峠**と呼んでいると言う。

標識もなければ石碑も地蔵像もない、質素な峠である。



峠からの下りは一転して急坂である。
しかも植林地に入るので暗い。



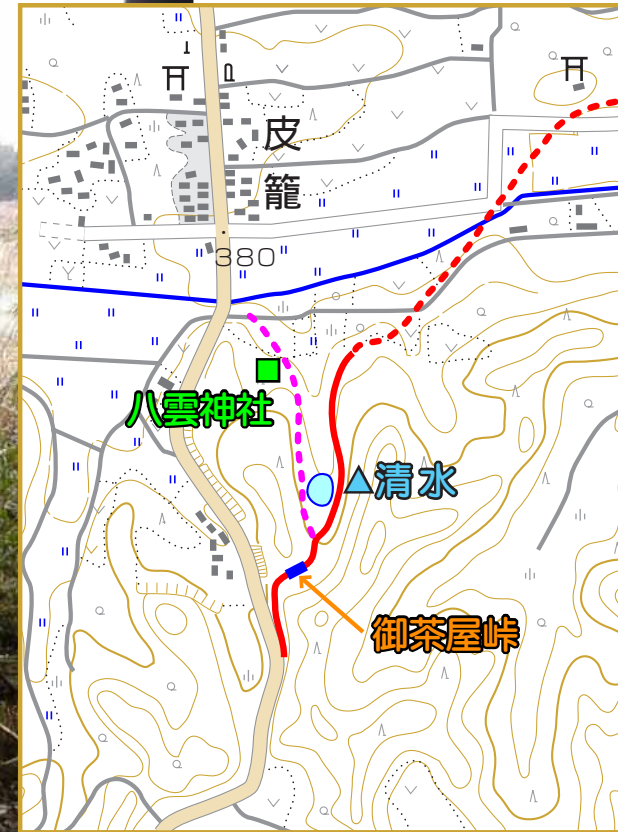
峠の坂を下りて平坦になると道筋が不鮮明になるが、
構わずにそのまま直進すると再び細道が現れる。



やがて右側に古い溜池が見えてきた。
机上調査では、この池は左側に見えるはずなのだが…。
まあ、他に道もないので取り合えずこのまま進んでみる。



昼でも暗い植林地の中の細道を緩やかに下って行くと、
周囲の風景に全く同化してしまったような鳥居があった。
扁額には「八雲神社」との名前が読み取れる。
やはりこの道は古道に違いない、と確信したのも束の間…。



植林地を抜けて広場に出ると、その奥には先ほどスタートした
国道294号線が見えるではないか。

道を間違えた！

慌てて峠を下った笹藪地点まで戻る…。

(これはこれで古道に違いないとは思うのだが正体は不明)



笹藪の中をいくら探しても分岐点が見つからないので、
適当な所から東側に突入する。

わずかな不安を抱きつつ杉の間を進むと、すぐに明瞭な細道に出た。
これが目的の古道に違いない。
逆走してみたが、やはり明確な分岐点は判らなかった。

改めて奥へと進む。



足元に執拗に絡む杉の枝葉に悩まされながら進むこと暫し。
細い水の流れに土橋らしきものが架かっていた。
コンクリート製の土管が埋まっているだけかも知れない。



流れを遡るとすぐに水源地に辿り着いた。
岩の間から水が湧き出している。
当時この辺りには茶屋があったといわれ、
その名を取って御茶屋峠と呼ばれたのであろう。

現在この一帯に人家はないが、**御茶屋**との字が地図には残っている。



土橋から先は広く鮮明な道になっており、自動車も入るらしく轍まで付いていた。
今でも作業道として管理されているようだ。



笹の回廊を抜けると再び杉の植林地になった。
相変わらず古道由来の作業道は鮮明だ。
樹間にはシイタケ栽培のホダ木が多数見える。



やがて前方が開け、水田が見えてきた。
ようやく里に出たらしい。

直進するのは作業道で、右に伸びる窪地が古道だったと思われる。



土や落葉が堆積し、浅い溝状になってしまった古道。

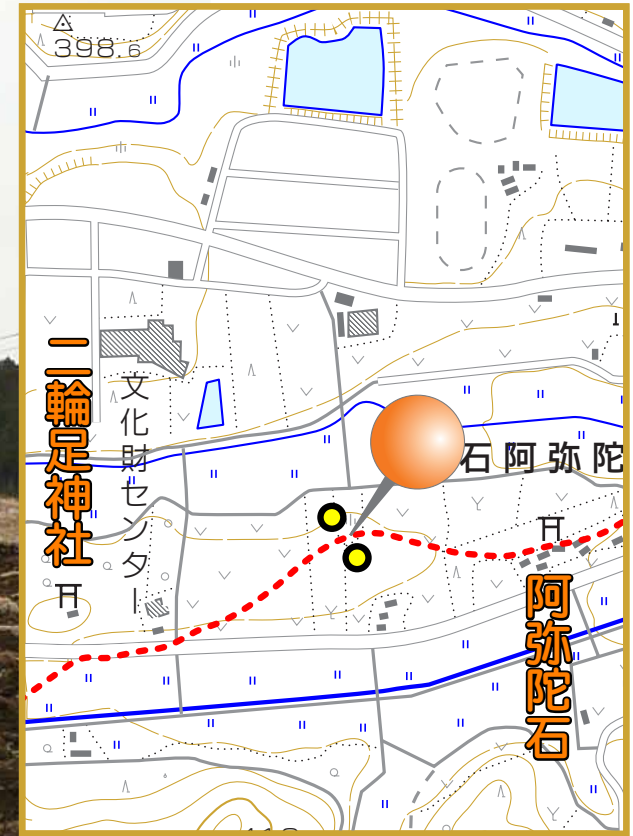
奥は「皮籠農村環境センター」になっており、道はそこで消えてしまう。
その先も河川改修や圃場整備により消失しており、道跡は辿れない。

〈謎の一里塚〉



一気に北へ飛ぶ。
古道は**二輪足神社**の前を通っていたとのことだが、
現在は立派な舗装道になっており、昔の面影はない。

この先でも拡幅工事が進行中であった。



さらに東へ進むと車道北側の畑の中に一对の土饅頭が現れる。

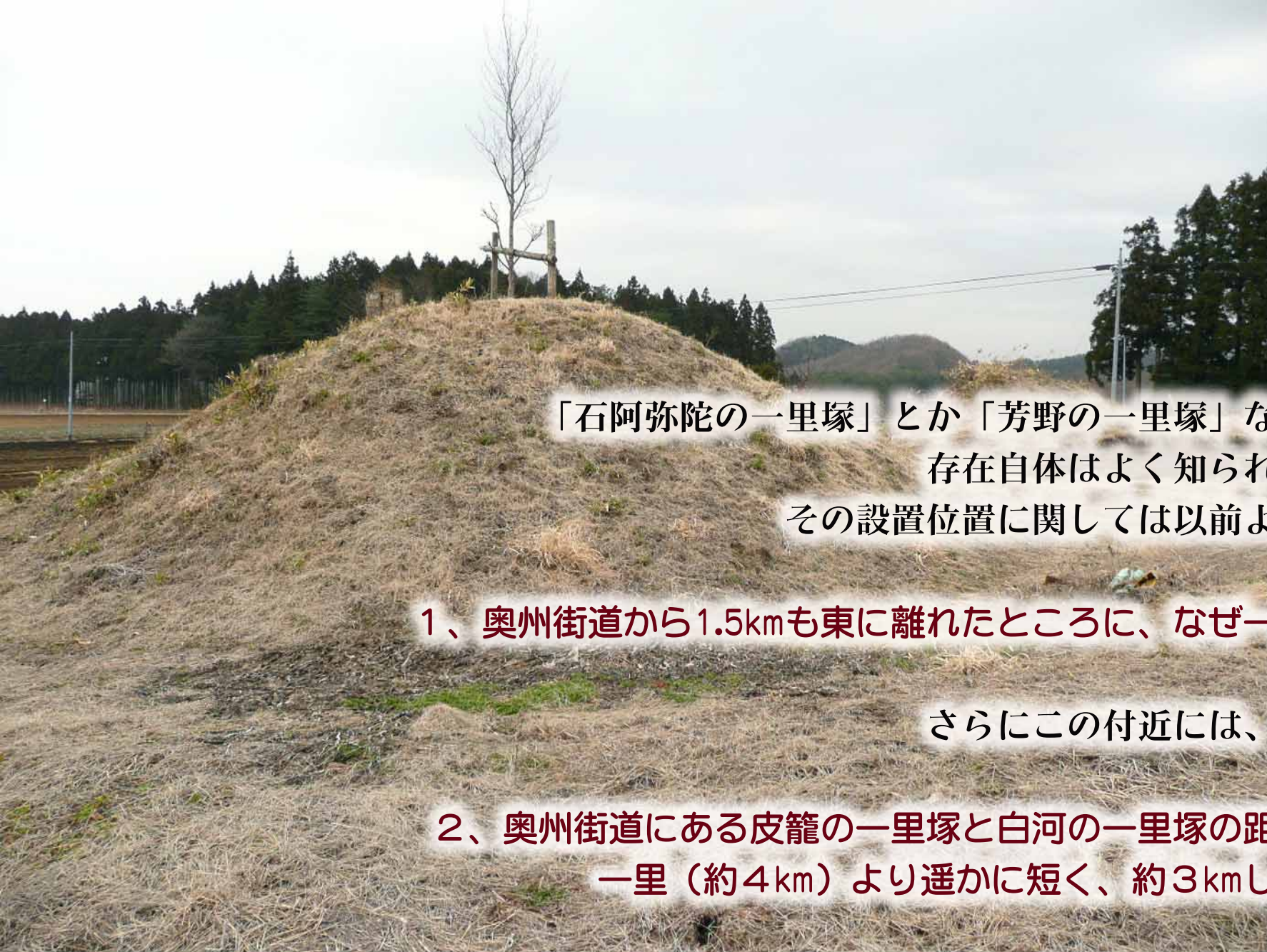
一里塚である。

笹藪に埋もれかけた寂しい細道の延長には、なんと一里塚があるのだ。

これは、この古道が単なる間道ではなかったことを如実に示している。

江戸期には一里塚が設置されるほど重要な街道だったに違いない。

残念ながら、この前後の道は耕地化により消失している。



この一里塚は「石阿弥陀の一里塚」とか「芳野の一里塚」などと呼ばれており、存在自体はよく知られたものであったが、その設置位置に関しては以前より謎とされていた。

1、奥州街道から1.5kmも東に離れたところに、なぜ一里塚があるのか？

さらにこの付近には、もう一つ謎がある。

2、奥州街道にある皮籠の一里塚と白河の一里塚の距離が一里（約4km）より遥かに短く、約3kmしかないのはなぜか。

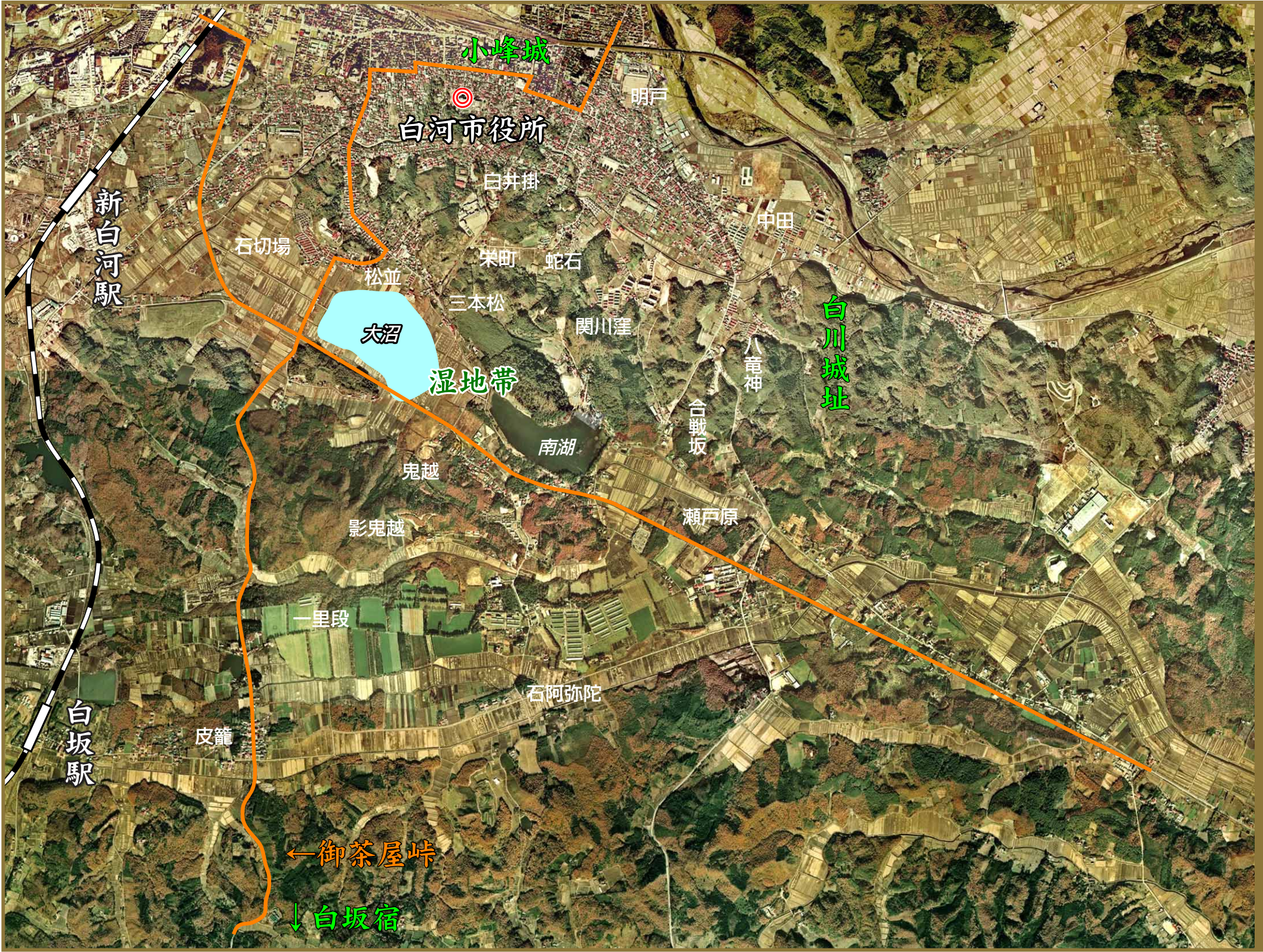
そして、その謎に答えるかのように「謎の一里塚」は語る。

3、この一里塚から白河の一里塚までの距離がほぼ一里なのは偶然か。



つまり、ここまで私が辿ってきた埋もれかけの細道は、
一時的にでも奥州街道だった時期があるのではなかろうか？
と言うことは江戸時代に換線があったことになるが、
その理由はなんだろうか？

近年出版された本と、私の妄想を合わせて仮説を構築。
その仮説を元に地図を作成し、現地を探索してみたのが今回のレポートである。



小峰城

白河市役所

明戸

新白河駅

石切場

白井掛

中田

松並

栄町

蛇石

三本松

関川窪

大沼

湿地帯

白川城址

八竜神

南湖

合戦坂

鬼越

瀬戸原

影鬼越

一里段

石阿弥陀

白坂駅

皮籠

←御茶屋峠

↓白坂宿

<舗装された古道>



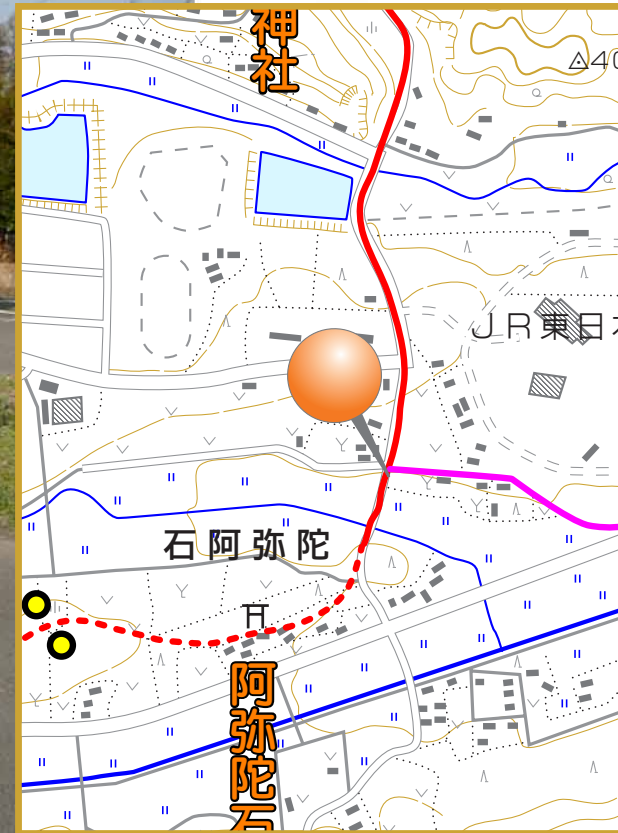
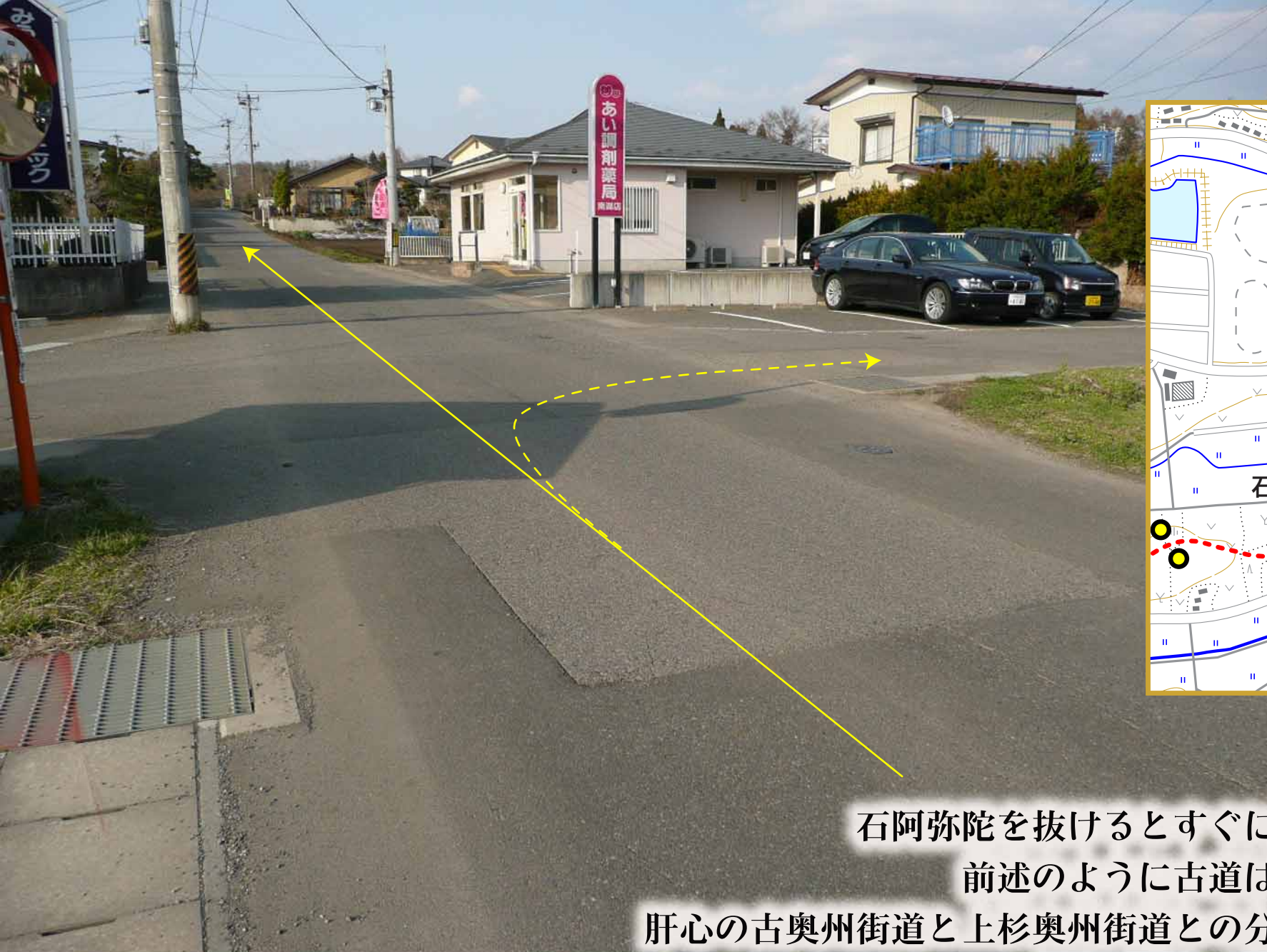
一里塚から先の状態も簡単に紹介しておこう。

石阿弥陀にはその名の由来となった**阿弥陀石**を納めたお堂がある。

この付近が旧芳野宿だったと思われるが、
街道の換線に伴い住民の多くが現国道沿いの**皮籠**に移転したため、
現在は宿場町の形態を残していない。



石阿弥陀集落裏の作業道から一里塚を振り返る。
建築中の近代的な建物を背景に、二基並んでいるのが見える。



石阿弥陀を抜けるとすぐに進路を北に変える。
前述のように古道は消失しているため、
肝心の古奥州街道と上杉奥州街道との分岐点は不明である。
あえて現在の道路に投影するなら、
このどこにでもありそうな普通の交差点がそうであろうか。
ここは直進する。



JR東日本の研修施設がある**十三原**を抜けると上り坂になる。
この辺りを**鬼越**という。
巖しい峠道だったことが伺える地名である。

古道はここを左に入っていたと思われるが、
すぐ先で藪に埋もれてしまう。



藪を迂回して細道に入る。
曲がりくねった細道がいかにも古道らしい雰囲気だ。



カーブを曲がった所に**八幡神社**があった。
歴史のある道であったことが伺える。

この辺りは上杉氏による新規開削ではなく、
従来からあった道を組み込んだのかも知れない。

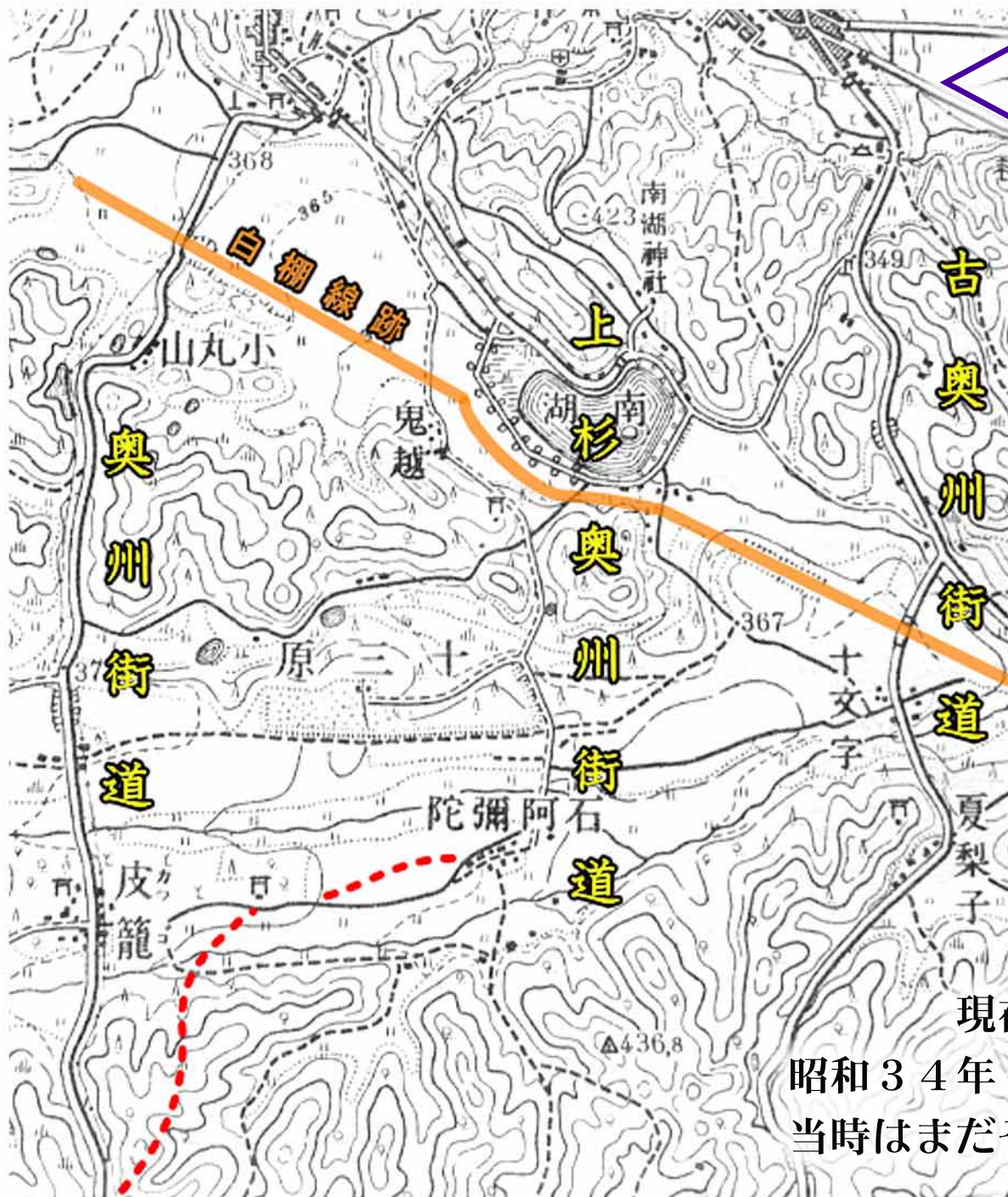


やがて前方に国道289号線が見えてくる。
以前は旧白棚線の道床を利用したバス専用道であった。
古道はさらに先へと伸びていたが、辿れるのはここまでである。



徳川方の軍勢を迎え撃つはずだった湿地帯の現状。
大沼は埋められて耕地化、その東側を通っていた古道も
圃場整備により消失した。
僅かに点在する葦原に当時の様子を想像するしかない。

＜大沼北部の様子＞



現在は消えてしまった上杉道であるが、昭和34年（1959）発行の地形図を見ると、当時はまだそれらしき道筋が残っていたようだ。



北に迂回し、大沼を干拓した耕地を振り返る。
古道や沼の様子を想像するのは難しい状態だ。



圃場整備を記念する石碑を仰ぎ見つつ進むと
古道は宅地に吸い込まれて行き、そこからは急激に細くなる。



耕地の中を通る古道。
幅員は当時のままなのではなかろうか。

右側には平行して走る旧国道289号線が見える。



すぐ先で旧国道に合流する。
さらに北へと続いていたようにも見えるが、
ひとまずここまで、としておこう。

左（西）へ200mほど進んだところで奥州街道に合流する。

上杉氏による奥州街道の換線 ～もう一つの「関ヶ原」～

この記事の感想をお聞かせください。

公式サイトアンケートのほか、下記フォームからお送りいただくこともできます。みなさまのご意見、お待ちしております！

1. この記事はいかがでしたか？

←つまらない・役に立たない ふつう おもしろい・役に立つ→

1 2 3 4 5

2. コメントをどうぞ！

（空欄でも結構です。内容は「日本の廃道」公式サイトや本誌で公開する場合があります。公開を希望されない場合は「公開不可」にチェックを。）